

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500328		
法人名	株式会社ジョウジマ		
事業所名	グループホームふるさと伊万里		
所在地	佐賀県伊万里市南波多町大川原4224-1		
自己評価作成日	平成26年8月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年8月29日	外部評価確定日	平成26年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様がホームでの生活を楽しまれ、自分の居場所や役割を持たれることで生き生きと過ごして頂けるよう支援しています。そのために職員は、常に笑顔と元気な挨拶・会話に心がけています。年間を通しての四季折々の行事を計画し季節の移ろいを感じ、楽しんでいただけるように支援しています。また、今年度から毎月の自主防火訓練に取り組んでいます。いざと言う時に、私たち職員が適切な動きを迅速に行い、利用者様の命を守ることが出来るように努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>国道から少し入った所で、騒音もないのどかな田園の中に建つ事業所である。庭先の椅子とテーブルはひなたぼっこや、外の空気に触れながらのお茶時間にも最適である。全室の約半分が庭に面し、その居室に窓ではなく縁側のようなサッシ戸が設えてあるのは、災害時にはそこを非常口としても活用できるからである。また、居室毎に貼られた色紙は避難時の介助の程度を表し、外部の救援者に伝わりやすくなっている。毎日記入される記録簿にも工夫がある。開くと入居者毎のページが見開きで用意されている。一日の流れは2枚並べて綴じられているが、片方は前日分である。食事から排泄、運動や睡眠状況等に至るまで記録があり、当日の様子と比べつつ目安にもなっている。項目は入居者の状況により増えたりもする。緊急の連絡先や介護計画も見ることができ、職員が使いやすく要領を得た仕様になるまでの工夫が伺える。代表者の志は高く、その分職員に対し厳しくもあるが、「その人らしく生きていただく」という理念は全ての職員に浸透し、日々のケアに活かされている。</p>

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時には、必ず理念を唱和し意識の共有、実践に取り組んでいる。また、新任研修時には、事業主より理念についての説明がなされている。	毎日朝の申し送り時に読み上げる事で、理念を共有し実践に取り組んでいる。新人研修時、事業主より理念についての説明がなされている。	理念は、常に立ち戻る基本として代表者により作り上げられている。それを踏まえて、年度毎に介護目標が掲げられ、各ユニットでは、そこから更に掘り下げた目標を考え、方向を定めている。日々それらを唱和することで意義を確認し、具体的なケアへと繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との日常の挨拶や会話を積極的に行っている。地域の夏祭りへも参加をしている。婦人会、老人会の訪問、小・中学校のボランティア活動の場にもなっている。クリスマス会には、地域の保育園児・保護者にも参加して頂いた。	地域の夏祭りに積極的に参加している。また、ホーム行事への呼びかけや、小・中学校婦人会、老人会のボランティアを招いて、地域住民と触れ合い日常的な交流を図っている。	事業所は、地域とのつながりを大切に、行事等にも積極的に参加している。また、クリスマス会やバーベキュー等には、近隣住民も招き交流に努めている。ボランティアの訪問は、多種にわたり、なかでも体験学習の場として小中学生を受け入れていることは、必要とされる活動や役割を担っていく姿勢の現われである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問の際には、質問を受けたり現状をお話している。また、小・中学校の福祉体験、職場体験の受け入れもしている。市より要請がある時には、認知症サポーター研修の受け入れもしている。	小・中学校の職場体験を受け入れており、福祉と直接関わる場を設けている。他施設からの研修や見学を受け入れている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し状況の報告を行っている。防火訓練、敬老会などホームの行事へも参加して頂き利用者とのふれあいもある。特に防災については区長様より、地域の情報や意見を頂いている。	ご家族、行政職員、消防団員等の方が参加され、貴重な意見や情報を提供して頂いており、日々の業務に役立てている。ホーム内行事の防火訓練や敬老会への参加など事業所の活動を見ても、当事業所での利用者の業況を報告させて頂いている。	運営推進会議は、外部の方の意見が聞ける絶好の機会と捉え、仕事を持つメンバーも出席しやすいように夕方から開催している。会議では、事業所からの報告だけではなく、メンバーからの率直な意見も出ている。それがきっかけで実施された事が毎月の避難訓練であり、更には、夜の暗さに備えた駐車場の外灯設置である。メンバーは、事業所の行事等にも関わり、協力者としても貴重な存在である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市の担当者に参加して頂き、事業所に対する意見や情報の交換を行っている。	運営推進会議には、市の担当者が必ず参加され、事業所に対する意見を頂いている。その際情報の交換を行っている。	運営推進会議のメンバーでもあり普段から顔なじみである。また、電話よりも直接出向いて話をすることが多く、実直に対応してもらえる関係が築けている。認定に関する事や空き状況、時には食中毒予防等のアドバイスをもらったり連携を深めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所でも身体拘束マニュアルを作成し勉強会を行っている。問題が発生した時には、その都度状況の把握に努め、スタッフでの話し合いを行い、拘束のないケアに取り組んでいる。状況に応じ家族との連携を取っている。	常日頃より、言葉の拘束から身体まで安易に拘束に至らないように勉強会を通して知識を高め取り組んでいる。玄関は施錠せず外へ行かれる方に関しては、ユニット間で見守り、ご本人の要望が尊重できるように支援している。	全ての職員は、身体拘束の内容と弊害を理解している。定期的な研修も行い認識の共有を図っている。玄関に施錠はなく、入居者の癖や傾向をつかむことで安全を確保しつつ自由な暮らしを支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所でも虐待防止マニュアルを作成し、スタッフ会議、スタッフ研修で勉強し虐待防止に努めている。問題発生時には、申し送りや連絡ノートを利用し、その都度ユニットでの検討を行っている。	事業所でも虐待防止マニュアルを作成している。スタッフ会議、スタッフ研修で勉強し、虐待防止に努めている。問題発生時には、申し送りや連絡ノートを利用しその都度ユニットでの検討を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の資料を保管し、いつでも利用者に必要な支援が出来る様にしている。	勉強会の資料を保管し、いつでも利用者に必要な支援が出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、家族に対して契約についての説明を行っている。不明瞭な点がないか必ず家族に確認している。事務担当者も同席し事務的なこともきちんと説明している。	入所時は、ご家族へ重要事項説明書について内容を詳しく説明をしている。当事業所の外部評価の内容を渡して、当事業所の取り組みを理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会より運営推進会議への参加、ホーム行事への家族の参加を頂き、意見・情報の交換を行っている。電話や面会時など日頃から家族との意見交換を行っている。	家族会を立ち上げ、運営推進委員会に参加してもらい、ホームの現状の報告や意見を頂いている。また、スタッフは電話や面会時に利用者様の状態報告や意見交換を行っている。	家族の来所は職員にとっても絶好の機会であり、率直に話してもらえよう努めている。電話や手紙で近況を伝える場合でも、出来るだけ家族の思いを汲み取ろうとしている。電話での連絡は頻繁に行っているが、それが家族からの信頼と理解に繋がっている。出された意見等は前向きに活かそうとする姿勢がみられ、サービスの質の向上へ反映されている。事業所の外にも苦情や相談の窓口があることは書類にも明記され、説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員はスタッフ会議、ユニット会議などで積極的に意見、提案をしている。そして出来る事から取り組んでいる。アイデアボックスが設置され、提案がしやすく迅速に対応できる環境である。	職員は、スタッフ会議・ユニット会議等で積極的に意見・提案した事を運営や業務に生かせるように努めている。	月一回全ての職員が参加するユニット毎スタッフ会議が行われている。これには非番者も出席する。限られた時間を有効に使うため、予め具体的な内容を記載したレジュメが用意される。代表者や管理者は、現場を一番よく知るの職員であるとの認識から、活発に出る意見に耳を傾けている。また、日頃のコミュニケーションも大切に、自由な話し合いが持てるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給を利用し、外部研修にも積極的に参加出来る職場環境を整えている。職員旅行や親睦会も行われている。	有給を利用し、外部研修にも積極的に参加出来る職場環境を整えている。職員旅行や親睦会も行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のスタッフ研修及び新任研修を行っている。また、外部研修の情報を提供し、積極的な参加を促しスキルアップを図っている。	月一回のスタッフ研修や新人研修を行っている。外部より講師を招いて講習会を開き、また外部研修にも積極的に参加して、スキルアップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者との合同の研修会を行い、現状での状況や意見の交換を行った。(6/23)	市外の他事業所からの視察研修の受け入れや市内同業者を交えた研修会を行った。(6/23)		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時は、家族・本人にもホームの見学をして頂いている。面談も行いゆっくりと話を聞いている。安心して利用して頂くために、状況の確認と情報を正確に受け取り、必要なケアの提供が出来る様に努めている。	必要なケアの提供が出来る様に努め、本人や本人に関する事項を家族やケアマネから情報収集してよく把握した上で、ケアプランの作成を行い、ホームの生活に馴染んで頂けるように支援している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり家族や本人の要望などに対しては真摯にお話を聞いている。入居されたら利用者の様子をこまめに家族、ケアマネに連絡し安心していただけるように努めている。また、いつでも気軽にスタッフに声を掛けて頂ける雰囲気づくりに努めている。	入居に至るまでは、利用者にお会いしたり、希望があれば体験入居をして頂いている。また、家族の要望や不安をお聞きしている。入居後は、家族に頻回に連絡するようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の状況や本人の要望を詳しく伺い、必要なサービスを提供している。また、その時の状況や希望があれば体験入居を利用して頂く事もできる。	家族の状況や本人の要望を詳しく伺い、必要なサービスを提供している。その時の状況により体験入居を利用して頂けるようになっている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中に、利用者それぞれの残存機能を生かした役割を持って頂き、生き生きと生活して頂けるよう支援している。(食器拭きや洗濯物量などスタッフも一緒にやっている)	本人様が出来る事をスタッフ全体で見極め、自立支援に向けた残存機能を活用を目的として取り組んでいる。過去の生活歴をお聞きしながら支え合う事を基本とし、喜び合える関係を図っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時は、居室でゆっくり過ごして頂いている。時には一緒に食事を楽しまれる事もある。外出される時には、利用者の状況を伝え安心して頂けるよう支援している。希望があれば車椅子の貸し出しも行っている。	面会時、利用者の近況をお伝えしたり電話や手紙でも報告している。また、年4回のホームで作成した広報をお渡しし、行事の参加の呼びかけも行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚や友達など、いつでも気持ちよく訪問して頂ける雰囲気作りに努めている。外出の支援もしている。	基本的には、いつでも何方でも面会できるようにしている。行きたい場所などの要望以外でも外出を計画にいった支援をしている。	入居時に、家族や担当のケアマネージャーから、これまでの生活について聞き取っている。出来るだけ地域との接点を保ちながら関係の継続に努めている。行きつけの美容院へ通ったり、ドライブや日用品の買い物に出掛けることで継続的な交流ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクに参加して頂き、利用者同士の交流や共通の話題の提供に努めている。その時は、席の位置にも気を配りふれあいや会話がスムーズにいくよう配慮している。ユニットでのお誕生会には全員の方が参加されている。	利用者同士がお互いに仲間意識を持って頂く様に、誕生日会や行事など利用者全員で顔を合わせ、カラオケなどをし、楽しめる機会を提供している。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたり他の施設に移られても、必要に応じて情報の提供を行っている。また、亡くなられた時には、通夜、葬儀への参列をさせて頂いている。	家族の要望により、本人に適した施設等の相談、援助、情報提供を行っている。また、入院中のお見舞いや亡くなられた時は、通夜・葬儀への参列をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活を考慮しながら、趣味や特技を継続して生かせる場を提供できるように努めている。また、日常において本人の意思を大切にしながら、お手伝いなどをして頂いている。(食器拭き、片付け、洗濯物量等)	一人一人の要望は何なのかを認識した上で、日常生活の中に出て来られる事を可能な限り取り入れている。また、本人の意思を大切にしながら、希望に沿った支援を行っている。(食器拭き、洗濯物量、モップ掛けなど)	日常の関わりの中で、一人ひとりに関心を払うことで思いを汲み取ろうと努めている。入浴時や就寝前、また、お茶を飲みながら話している時などリラックスしている時には、思いがけず入居者の思いが聞けることもある。職員は、入居者に寄り添い、ゆっくりと話し掛けることで把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネの情報を基に、これまでのサービス利用を把握し、生活のパターンを知るように努めている。入所の際には、愛着のある家具などを使用して頂き、落ち着いて頂ける環境づくりに努めている。	家族、ケアマネの情報を基に、これまでのサービス利用を把握し、生活のパターンを知るように努めている。入所の際には、なじみの場所へお連れしたり、愛着のある家具などを使用して頂き、落ち着いて頂ける環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者個人の24時間の記録をすることで現状の把握が出来る様になっている。記録様式は個人に合った様式にし、誰が見ても状況のわかる記録を残すようにしている。	利用者個人の24時間の記録をする事で現状の把握が出来る様に、スタッフ間で利用者の状況等・意見の共有に努めている。ケアプランでは、センター方式を活用し利用者の情報収集を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議を3か月ごとに行い、スタッフ全員の意見を基に、担当者が介護計画書を作成している。家族面会時や日常の利用者との会話の中から意見や希望をくみ取り反映させるようにしている。また、必要に応じカンファレンスを行い介護計画の見直しを行っている。	ユニット会議を三ヶ月に一度行い、スタッフ全員の意見を基に、担当者が介護計画書を作成している。又、状況の変化や必要時に家族を交えてカンファレンスを行い、新たに介護計画書を作成している。	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。設定期間毎の見直しはもとより、要望や変化があれば、その都度、臨機応変に対応している。介護計画の担当者会議に家族の同席を検討しており、計画が作られていく段階を直に見てもらおうことのメリットに期待している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の1日の記録や受診ノート、管理日誌、申し送りノートの活用により、現状の把握や日々の変化に気づくように努めている。その情報をスタッフ間で共有し、介護計画書の見直しに生かしている。	個人の1日の記録や受診ノート、管理日誌、申し送りノートの活用により、現状の把握や日々の変化に気づくように努め、スタッフ間で情報を共有し、一人一人に合ったケアが出来る様に支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて家族やボランティアの協力を得ている。個人に合わせ受診や往診を利用している。状態にあった対応が出来る体制をとっている。	必要な方に応じては、当事業所のPTIによるリハビリを行っている。また、月1回定期的に眼科や主治医の往診をして頂いている。往診以外でも、体調の変化時は、病院へお連れしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小・中学校の職場体験の受け入れや、地域の老人会の訪問など交流が出来る。月1回の映写ボランティアはとも喜ばれている。	地元の小・中学校の職場体験を取り入れたり、地域の行事に参加したり、老人会の見学・慰問や、映写会・生け花など地域ボランティアを招いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を取り入れ、かかりつけ医の受診を継続できるようにしている。病状の変化によっては、家族と相談のもと主治医の変更も行っている。認知症に関しては専門医の受診をしている。	本人、家族の希望を大切に入院前のかかりつけのDrとの関係を図りながら定期的な受診を行っている。異常時にはその都度受診し、認知症状に関しては専門のDrへの受診を行っている。	入居後も主治医の変更を勧めたりせず、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診には、職員が同行し、それぞれのかかりつけ医とは話し合いや情報のやり取りを通して関係が築けている。また、受診結果に変化があれば当日中に家族に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や変化をこまめに看護師に伝え、日常の健康管理に努めている。必要に応じて医療機関を受診している。	看護職員との連携を取り、利用者の状態に応じて医療機関との連携を図り、日常の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医との連携を図り、入院は最小限にして頂いている。異常時や退院時にはホームに連絡を頂くようにしている。家族の希望があれば、医師の指示のもとにホームでの対応も行っている。	早期退院が出来る様に病院と相談や情報交換を行っている。病院での対応が困難な場合は主治医の指導の下、医療機関との連携を取り行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時には家族、医師を交えたカンファレンスを行い、家族の意見を尊重しながら今後の方針を決めている。そして、家族、医療機関との連携を密にとりケアに取り組んでいる。	重度化した場合は、家族、かかりつけDr、事業所とカンファレンスを行い今後の方針を定め、家族・医療機関と密に連絡を取っている。	これまでに看取りの経験がある。入居時にターミナルケアについての説明もしている。本人や家族の思い、また事業所の体制など状況の変化に応じて、繰り返し話し合いを持つようになっている。本人や家族の意向をふまえ、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し活用している。個人で判断せず速やかに管理者に連絡し、指示の元対応している。事業所でもマニュアルを作成し、勉強会を行い緊急の対応が出来る様に努めている。	緊急連絡網を作成し活用している。個人で判断せず速やかに管理者に連絡し、指示の元対応している。事業所でもマニュアルを作成し、勉強会を行い緊急の対応が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。年2回の防火訓練には、運営推進委員にも参加して頂き意見を頂いている。訓練後は意見や、指摘などをとらえて勉強会を行っている。今年4月から月1回の自主防火訓練に取り組み、災害時に迅速な対応が出来る様に努めている。	災害時のマニュアルを作成している。地区消防団にも消化訓練に参加して頂いている。災害時の避難訓練についても勉強会を行っている。今年4月より毎月1回、防火管理者の元、全職員対象に防火訓練を行っている。	年二回の避難訓練には、消防署や地域の消防団も立ち会っている。夜間を想定し、夕方の薄暗くなる時間帯にも行っている。この他に事業所独自の訓練を毎月行ったり、あえて遅出・夜勤者が避難手順の唱和をしていることは職員の意識の変化となって表れている。夜の暗さを案じて外灯も設置された。全ての職員は、消火器と火災通報装置の使い方も心得ており、家族へは一次避難場所も周知している。これからは、近隣住民の参加を呼びかけたり、非常食や水の備蓄を検討されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA()	自己評価／ユニットB()	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や確認・汚染時などは、耳元で言葉かけをするなど、本人のプライド、プライバシーを大事にしている。また、居室のネームプレートや表札は、本人、家族の意向に沿って対応している。	本人のプライバシーを大事にして、トイレ誘導や汚染時には耳元で言葉掛けをしている。居室の入り口や名前の明記は、家族の意向に沿って対応している。	年長者として敬意を払い、援助が必要な時はまず本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心掛けている。また、年四回発行されるホーム便りでは、写真の掲載等についても本人や家族から了承を得ており、個人情報やプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を受け止め、利用者が自己決定できる言葉掛けに努めている。(服を選んだり、飲み物を決めたりなど)	毎日の生活の中で、その日の服やおやつなど本人の思いや希望を取り入れ、一方的にならない様にしている。自己決定が出来る様な声掛けに努めている。希望に沿い、行事以外でもシーズン毎に外出支援を行い、季節感を感じて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで毎日をご過ごせるよう見守り、希望に沿った必要な支援を行っている。	利用者が自分のペースで日々生活を送れるように見守り支援している。毎日を楽しみ過ごして頂ける様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れ、TPOに合った身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。日曜日は整容の日とし取り組んでいる。家族の理解・協力の元、外出による美容室の利用も行っている。	常に利用者の身だしなみに気を配り、外出の際、女性の方には化粧、男性の方には整容に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れた献立をたてている。利用者それぞれにあわせた食事形態にし、盛り付けや器にも気を配りおいしく楽しく食べて頂けるように気を付けている。同じ食卓を囲み、準備や片づけもお元気な方には手伝っていただいている。おやつ作りを一緒にしたときはとても喜ばれ会話が弾んだ。	利用者の好き嫌いを把握し、それになるべくそえるようお出している。イベント毎に(母の日や七夕など)行事食を提供して、利用者楽しんでおいしく食べて頂いている。野菜の下準備・テーブル拭き・食事の後片付けを、出来る方には職員と一緒にして頂いている。	献立は、入居者にも希望を聞きながら、職員と栄養士が立てている。敷地内に同法人施設もあり、同じ献立であるため、準備は主菜副菜など手分けして行っている。入居者も出来ることを手伝い、食事は職員も一緒に同じテーブルを囲んでいる。食の細い入居者には、傍らの職員が話し掛けながら自然な形で介助している。アルコールの提供も月に2回程ある。食材は配達員が主だが、ドライブがてら入居者と一緒に買い物にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態、病状・希望に合った食事量にしている。医師の意見や指示も取り入れ対応している。夏場は特に水分補給の為、夜間の配茶や水分チェックなど随時必要に応じ行っている。	食べる量を各個人に合わせて調整し、なおかつ小食の方には、主治医より高カロリードリンクを出して頂き補っている。また、水分不足にならないように、昼夜ともこまめに水分補給に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きや口すすぎなど利用者の状態に合わせた言葉かけや誘導、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。	毎食後、個人の状態に合わせて歯磨きやうがいの言葉掛けや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の不具合や痛みのある時は、早めに歯科受診して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	体調や状況に合わせて、おむつの使用は最小限にしている。記録により排泄パターンを把握し、利用者にあった時間での言葉かけや誘導の支援を行っている。状況により居室でポータブルトイレも利用して頂いている。	記録により排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導を行っている。また、動作の違いや行動等で気づき、失禁・失敗が少ないようにトイレへの誘導や言葉掛けを行い支援している。	日々の記録から本人のパターンを把握し、自尊心に配慮したさりげない誘導や声掛けを行っている。日中は、トイレでの排泄を大切にしており、便座に設置した可動式の手摺りは入居者の建ち座りを助け、負担を和らげている。また、失敗してしまった場合でも手早く対応し、周囲に気付かれないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、水分や野菜・果物の摂取を心がけている。体操や腹部マッサージも行っている。状態により、医師の指示の元緩下剤の使用も行っている。	食事は、繊維類の多い物を心がけ、便秘の予防に心がけている。また、体操や腹部マッサージを行い自然に排便があるように働きかけている。利用者一人一人の排泄リズムを記録により把握し、必要時主治医の指示の元緩下剤の投与を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の体調や希望に合わせて、入浴や清拭の支援を行っている。入浴を安全にゆっくり楽しんで頂けるよう心掛けている。	利用者の体調や希望に合わせて、ゆっくり入浴して頂いている。また一人でゆっくり入浴して頂ける様、言葉掛け・見守りを行い、季節や体調に合わせて、浴室などの室温調整を行っている。また色々な入浴剤を使用することにより、入浴を楽しんで頂いている。	入居者の希望があれば入浴はいつでも可能である。現在は、午後からの利用が多く、拒む方には清拭も含め職員を替えたりタイミングをずらすなど工夫している。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、職員はさりげなく介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の室温時計を確認し、空調管理を行い気持ちよく休息や睡眠をして頂けるよう支援している。また、季節ごとの寝具・衣類の調整を行っている。	湿度計や体感温度にてこまめに空調調節を行っている。寝具も体調や季節に合わせて調整を行っている。夜間熟睡時は、安眠を妨げないよう、トイレ等の言葉掛けは時間をずらして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認できるようにしており、医師・看護師の指示のもとに行っている。服薬は管理日誌に記録し確認している。そして症状の変化を見逃さないように努め、医療機関との連携を図っている。	服薬の一覧表をカーデックスに挟み、一人一人の薬の把握に努めている。服薬直前、名前の確認を行い、誤薬確認にも努めている。服薬後の様子観察も心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での役割を持って頂きスタッフも一緒に行っている。(野菜の皮むきや洗濯物量、食器拭きなど)季節ごとの園芸や作物などを話題に取り入れ、ホームの花壇や周囲の田を見られ楽しませたりしている。	出来る範囲でのお手伝い(食器拭き・洗濯物量・野菜の下準備など)をして頂き、生きがいに繋がるように言葉掛けをして支援をしている。毎日レクリエーションの時間を設け、意欲的に参加して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調により、ホーム庭や近くの散歩、季節ごとの花見や紅葉ドライブなどを楽しんで頂いている。状況を見ながら、家族了解のもと野球やサッカー観戦にも出かけている。	利用者の希望や体調により、ホーム庭の散歩や季節ごとの花見や紅葉ドライブなどを楽しんで頂いている。また、入居者様からの要望を受け入れ、ドライブや買い物など外出支援を行っている。	職員は、外出が入居者の気分転換や五感の刺激にもなることを考え、できる限りの支援をしている。日常的には周辺を散歩したり、全車両が車椅子対応車であることから、買い物はもとより、おやつや外食にも出掛けている。季節毎の外出も計画し実行されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	嗜好品の購入にあたり、スタッフが預かり管理している方もある。本人の希望で家族了解のもと、ある程度は自分で所持されている方もおられる。	本人や家族の希望により、ある程度は自由に嗜好品など購入して頂いている。買い物時にスタッフが同行している。高額になるようであれば、家族に相談して購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族へ電話を掛ける支援を行っている。また、家族からの電話にはゆっくり会話を楽しんで頂けるようにしている。携帯を持たれている方には、充電にも気を付け対応している。	利用者の方の要望により、家族への電話を掛ける支援を行っている。家族よりお手紙やプレゼントが届いた時には、連絡をとり直接本人と会話して頂けるように支援している。ケアプラン郵送する際には、写真と近況報告のお手紙を同封している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごして頂けるよう、清潔で明るい空間づくりに努めている。照明や空調にも配慮し心地よく生活して頂けるよう気を付けている。また、季節感のある飾りつけを行うようにしている。	日頃より清掃、環境整備に心がけ不快臭に関しては換気を行っている。環境整備委員の活動を中心に、居心地良い環境を提供している。	入居者が多くの時間を過ごすリビングは、フローリングと畳に分かれ境目はフラットである。以前は段差もあったが、年を重ねていく入居者を思い改善された。共用部分に華美な飾りはなく、和の趣きで統一された家庭的な雰囲気となっている。全ての職員が属する委員会のひとつに環境整備の担当があり、事業所内の掃除はもちろん、臭気についても配慮が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳とフローリングのスペースがあり、1人から4人掛けのソファを配置し、好きな場所のを利用して頂いている。畳の間では座ったり横になったりと自由にして頂いている。	玄関横に椅子を置いて共用の一人になれる空間を作っている。中庭にもベンチや椅子テーブルを置き、好きな時にお茶を飲んだり、談話したり出来る様に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出や馴染みの家具などを持ち込んで頂き、落ちついて安心して過ごして頂けるようにしている。また、利用者の動きに合わせた配置を行い安全にも気を付けている。	馴染みの家具を持ち込んでもらったり、その方の動きに合わせた配置を行い落ちついて頂ける支援している。利用者の体調によっては、空気清浄機を設置して居心地良く過ごして頂ける様にしている。	居室には、畳とフローリングの2種類がある。持ち込む品物には、火気や刃物類以外の制限はない。職員は、入居者と相談しながら馴染みの物を活かして、その方らしく過ごせるように支援している。仏壇を持っている方には、毎朝仏飯を用意するなど、個別に応じた支援をしている。また、希望をすれば宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にネームプレートを下げたり、トイレの表示をしたりしている。ホーム内は段差がなく、廊下やトイレなどには手すりを設置し安全に生活して頂けるようにしている。	必要な所には手すりを設置している。また、居室やトイレなどの場所が分かる様に大きく目印をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
			○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
			○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない